

寺報



No. 4

発行 遍照山慈光寺
(久慈市大川目町22の6)
編集 田表永七

位牌堂落慶式おとそかに 六〇〇余名の檀信徒が参列 大導師一雲上人と共に万感こめて合掌

檀信徒が待ちに待った位牌堂の落慶式は、十二月十二日午前九時から、本寺において厳かに挙行されました。

当日は、十二月にしては珍しいほどの好天に恵まれ、本堂や境内は、約六百名の檀信徒で埋めつくされました。

位牌堂落慶法要は、三つの儀式に分けて行われました。

定刻の午前九時には、約六百名の檀信徒が見守る中、第一の儀式「旧位牌発遣供養」が行われました。

これは、檀家各家の古い位牌をお焚き上げするために魂を抜く儀式で、本堂前の境内に設けられた祭壇の上に並べられた古い位牌の前で行われました。

大導師一雲上人以下、二十二名の僧侶の読経の中、境内を埋め尽くした檀信徒が一斉に合掌する姿が印象的でした。

第二の儀式、「位牌堂開眼・祈願法要」は、位牌堂の中で、二十二名の僧侶と責任役員のみで行われました。

この法要は、新しい位牌堂のご本尊を開眼し、位牌に魂をいれるもので、位牌堂に響きわたる読経の声は、荘厳そのものでした。

第三の儀式、「報告法要」は、本堂で華やかに挙行されました。

約六百名の参列者は、本堂に入りきらないため、庫裏の大広間でモニターテレビに見入る人達も多勢いました。

この法要の後段で、挨拶に立った高谷泰道住職は、「波乱に満ちた慈光寺の歴史に想いをいたすとき、位牌堂の落慶をこの目で見る事ができるのは、住職としてこの上ない幸せであり、檀家各位のご協力に心から感謝します。」と述べ、多くの参列者の感動を呼びました。



位牌堂を 仏法興隆と
世界平和祈願の拠りどころに
慈光寺住職 高谷泰道

このたび時宗総本山より遊行七十三代一雲上人猊下をお迎えし、念願の位牌堂落慶法要を厳修できましたことは感慨無量であり、七百有余の檀家の皆様と共によろこびを分かち合いたいと存じます。

位牌堂の建立発願以来五年間、檀家各位の限りなきご支援と、総代・世話人各位の献身的なご努力によって、当山の永い歴史に、特筆すべき浄業が達成されました。

特に、昨年は、天保以来ともいわれる大凶作に見舞われましたが、檀家の皆様には苦難をものともせず多額の資金拠出にご協力下さいました。衷心より感謝申し上げます。

今後は、この位牌堂を、単にご先祖を祀る堂舎としてのみならず、すべての人々の幸せを祈り、仏法の興隆、さらには世界の平和を願うという、大いなる目的達成にも善用されるよう、努力して参りたいと思っております。

おわりに、檀家各位の安置をお祈りすると共に、当山護持運営に一層のご支援ご協力を下さいますようお願いし、御礼の挨拶にかえさせていただきます。



檀家、関係者各位の
ご協力に心から感謝
位牌堂建設委員長 米内肇

この度は、永い間の念願でありました位牌堂を建設することができ、感慨無量であります。

ただき、感謝にたえません。

本工事に当たられた新田組をはじめ工事関係者各位には、満足できる仕事をしていただき、感謝いたしております。

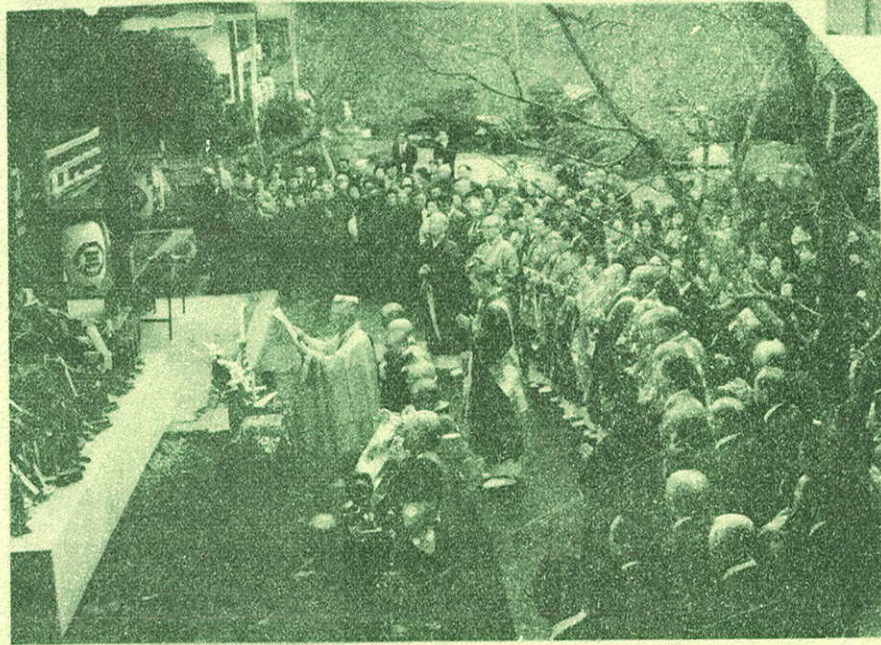
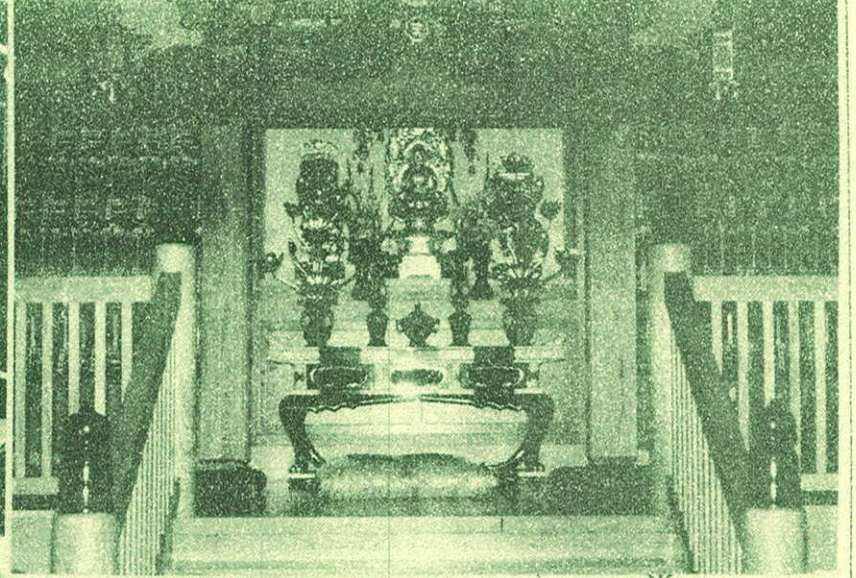
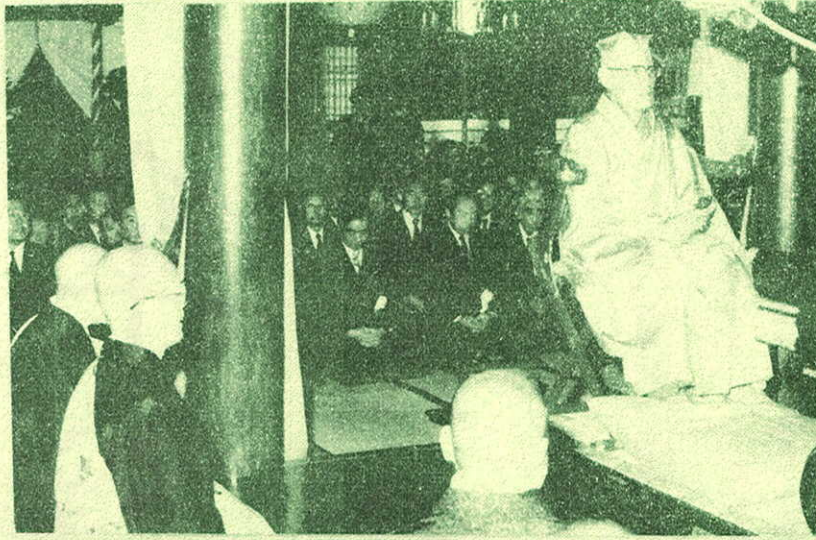
これもひとえに、総代、役員各位の努力とご協力によって、位牌堂建立の趣意が檀家各位の理解をいただいた賜物とおもいます。

先祖代々の霊もさぞかし満足していることと思っております。

最後になりましたが、総代、役員、檀家各位におかれましては、今後も慈光寺護持運営に対して、ご指導、ご協力をお願いいたします。位牌堂建設委員会を代表してのご挨拶といたします。

総代、役員をはじめ檀家各位に対し、心からお礼申し上げます。

遊行七十三世大僧正他阿一雲上人のお導きと、時宗同門の住職各位のご臨席により、おとそかに位牌安置、諸霊開眼の法要を挙行いたしました。



〔写真〕 右上——位牌堂内正面
左下——境内での「報告法要」

〔写真〕 約160人が参加した久慈グランドホテルでの落慶祝賀会

永年勤続役員に

総本山から表彰状

落慶式当日、位牌堂落慶を記念して、総本山から、本寺永年勤続役員に表彰状が贈られました。表彰されたのは次の方々です。

責任役員	村田良一
同	茅森武雄
同	三上重蔵
総代	小坂勲
元総代	沢山幸一郎
同	桜庭正義
世話人	中森正一
同	中森定男
同	真角金松
同	藤森正造

ご寄進

- ・金十万円 面代 倉栄一
- ・金十万円 小倉 栄一
- ・金二十万円 野場 相栄
- ・金七万円 切金 昭夫
- ・庭石・額入仏画 田家 耕夫
- ・位牌堂周辺の庭園修景 米内 造園
- ・重機による庭石工事 下山 鉄工

労の奉仕

- ・すす払い・ガラス拭き 山口 部落
- ・ワックスがけ・旧位牌場清掃 中田 部落
- ・参道・庭園等外清掃 外里・田子内・新町の各部落

一雲上人の筆になる色紙

位牌奉安世帯に配る

位牌堂に位牌を奉安した檀家は、落慶式当日時点で、五百九十二家でした。今後も、申しこみは続くものと思われまます。

位牌を奉安した檀家には、落慶を記念して一雲上人の筆になる色紙と、染め抜きの記念手拭いが、近日中に配られます。

色紙には、「無量光」の三文字が書かれています。

多くの人から親しまれる編集を

読者の反応が何よりもうれしい!!

寺報の編集を、深く考えもしないで引き受けたのは、たしか春の彼岸祭の時でした。編集者としては、一みんから読まれ、親しまれる紙面を」と心がけて、精一杯の努力をしてきたつもりです。

しかし、読者の皆さんは一体どう思っておられるのだろうか、常に不安を抱いてもおります。

春夏秋冬を一巡したこのあたりで、読者のみなさんのご意見やご感想を左記までお寄せいただきたいと思います。

久慈市大川目町二二の六

慈光寺

「傘かえで」編集者

田表永七

久慈市畑田二の三三の六

編集室から